



観光開発に向けて組織体制の充実を



▲スポーツゾーン・交流の森・地域ゾーン
(霞間ヶ溪公園)

9月議会の一般質問で、「観光開発を問う」と題して質問しました。町長は答弁の中で、池田温泉と池田温泉道の駅、霞間ヶ溪公園、大津谷公園を三つのゾーンとして拠点を作り、花で結んでいくことが大切ではないか。拠点的、集中的に早実行動していくことが必要であろうと答弁を頂きました。

業務委託してある「池田山麓花街道構想」策定の計画も出てくる中で、計画を進めていく上でどのような考えのもとで、どんな体制を進めていくのか。どの場所でもどんな花を植栽し、年度別の計画を立て、どのセクションが主体性を持って計画立案していくのが重要である。観光

開発と言えば、産業課の分野と限定してしまいがちであるが、各課の枠を超えて、縦割りではなく各課が横断的な協力体制を作りあげていくことが大切である。

現在の産業課の職員は臨時職員を含めて8名で、商工観光係は2名の職員で仕事内容は多岐に亘り、商工観光係で観光開発に対処していくにはノルマ的に無理ではないか。

町を挙げて観光開発をしていく上で、商工観光係を将来的には観光課としていくことを視野に入れながら、現段階として観光開発室、あるいは観光開発準備室として独立した部署を作り取り組むべきではないか。



▲健康ゾーン・余暇の森
(池田温泉・池田温泉道の駅)

町長

観光事業については、大変重要な部分であり、国においても観光立国を進めているが、池田町も観光立町を進めていきたい。大きな事業を展開するときには、準備室を備えてやっていくとか、課に上げたり局にしたり体制をとりながら進めていく方法もあるが、池田町においては、200名足らずの限られた数の職員で運営している。どの部署においても人員不足の中でやっているのが実態である。新しい課を作っていくことは非常に難しい。政策推進に当たって現在では4つのプロジェクトチームを作っている。

今後もプロジェクトチームを作り、観光開発に向けての事業展開をしていくことも必要ではないかと思っている。



▶学習ゾーン・自然体験ゾーン
(大津谷公園)